

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703105		
法人名	有限会社 健康サポートセンター		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	福岡県北九州市八幡西区浅川1丁目25-6	TEL	093-695-1315
自己評価作成日	平成 22年 6月10日	評価結果確定日	平成 22年 9月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりという事で、運営推進会議時に、自治会長さんや民生委員さんにお話し、イベントの為に市民センターの使用の有無やボランティアを募ったり、ご家族や地域の方々との交流に努めている。利用者と一緒に春には裏庭にて、イチゴ狩りをしたり、夏にはトマト・キュウリの収穫、秋には芋ほりをして、天気の良い日は、裏庭にて季節の風を感じて頂いている。レクリエーション係りがイベント年間計画を立て、事前に下見等を重ね、外食・そうめん流し・夏祭り・運動会・温泉等のイベントを積極的に行っている。常勤の正看護師が毎日の健康管理と緊急時の対応を24時間体制で行い、医師との連携も密に取っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成22年 8年 24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ひだまり」は、学園都市として発展した市街地の一角にあり、複合福祉施設と併設し、ホームの多機能性を活かした2ユニットのグループホームである。管理者、職員は「利用者が、自分らしく安心して暮らせる家」を目指し、日々の暮らしが充実したものになるように工夫されている。利用者の健康チェックは、24時間生活シート、リズムシートなどにより、職員が心身の状態を把握し、万全の態勢で、家族からの信頼も深い。2ヶ月毎開催の運営推進会議に、地域の自治会役員が参加し、地域情報や行事案内等提供してもらい、活発な交流が始まっている。また、小学生の福祉学習会での来訪は、利用者の楽しみの一つであり、一日一日を穏やかに、生き活きと暮らせる工夫が随所にみられるグループホーム「ひだまり」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で 不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサー ビスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた 柔軟な支援により、安心して暮らして いる (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス「自分らしく安心して暮らしていただける家をめざします」という理念を掲げている。職員は名札の裏に理念を書き込み、毎朝、唱和し日々理念を確認することによって、共有実践に向け取り組んでいる。	「自分らしく安心して暮らしていただける家を目指す」というホーム独自の理念を作成し、朝礼時に唱和し、一日の目標の一つとして掲げ、介護サービスの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の体験学習、民生委員・福祉協力員の見学の受け入れ、グループホームでのクリスマス会や、夏祭り等の行事に地域の方々に参加の声をかけて行っている。市民センターボランティアの方々の訪問などで交流を持ち、利用者も楽しみにしている。	利便性の良いホームには、民生委員、福祉協力委員等の見学や、ホーム主催のクリスマス会や夏祭りに参加のお願いをしている。またボランティアの訪問や、利用者が楽しみにしている小学生の体験学習等、交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、「認知症について」グループホームの事例検討等をあげた講義を行い、利用者のご家族・ご家族の友達・自治会長・民生委員等、地域の人々の理解を仰ぐ。なお、地域の研修等の参加、又、近隣の高齢者に声をかけを行い、認知症に対する理解援助の場を広げていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者のご家族・自治会長・民生委員・包括支援センター職員・グループホームの関係者等が、多数参加し、活発な意見交換が行われている。職員・家族間の交流の場も設けられ、充実した会議である。	2ヶ月毎の会議には、6地区の町内会長が交代で参加してもらい、活発な意見、情報の交換が行われ、有意義な会議として、ホーム運営に反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度程度、地域包括支援センターへ電話連絡し、情報の収集を行う。2ヶ月に1度の運営推進会議には、地域包括支援センターの職員の参加をお願いし、状況報告を行い指導を仰ぐこともある。	管理者や職員は、利用者の相談に区の担当課に出向いたり、地域包括支援センター職員に報告や相談をしたりして、密に連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの癖や傾向を把握し見守りに努め、日中は鍵をかけないケアを実践している。しかし、安全確保の為に、内ドアにはセンサーを設置している。	職員は利用者が、身体拘束や玄関の鍵をかけることの弊害を、十分理解し、日々職員同士で検証し、利用者が安心して過ごせるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は虐待防止の研修を行い、利用者の気持ちを理解するように努める。職員相互の連携によりゆとりを持って利用者 と接するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は権利擁護に関する研修に参加し、制度を理解しパンフレット・説明書等を用意、利用者又、ご家族への説明を行う体制を整えている。	現在成年後見制度を利用されている方が2名で、パンフレット、資料等を揃え、利用者や家族に契約時に説明し、制度活用に繋げている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、契約書・重要事項説明書をご家族と読み合わせ、説明を行い確認を取っている。疑問点がある場合は、その都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時・面会時、ご家族の要望や意見等を聞く機会を設けている。入り口に意見箱を設置し、来訪時、要望・意見等を記入し、入れて頂く様にもし、改善に取り組んでいる。	玄関に意見箱を設置しているが家族の意見は出てこない。運営推進会議に家族が参加し、会議終了後家族で話す機会をつくり意見、要望、苦情に対応出来るようにしている。	家族会の充実を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、代表者・管理者・職員の全体ミーティングを行い、その時々意見聞く機会を設けている。代表者不在の場合は、改善要望・意見等は後日、代表者へ報告している。	毎月職員会議の中で、全体ミーティング、カンファレンス、モニタリング、職員研修を行い、職員一人ひとりが意見を出し合い、ホーム運営に反映出来る仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップの為に、職員一人ひとりが、どのような目標を持ち、目標に向け、今、何をしているか等、アンケート・面談をし、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては性別・年齢等を理由に排除しない。職員がやりがいのある職場環境を整えるよう配慮する。	職員の採用は年齢、性別の制限はない。職員が生き生きと働ける職場環境にするために、希望勤務日や研修参加、休憩時間の確保等、職員の要望を聴き、応援体制を実施している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修を促したり、社内研修・グループホーム内研修を通して随時、人権教育に取り組んでいる。	管理者と職員は、外部、内部の人権研修に参加し、職員間で話し合い、利用者の人権を尊重し、啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の年間計画に基づき研修を行っている。社外研修にも積極的に参加を促しカンファレンス会議時に報告・知識情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問など行い、情報交換・意見交換を行って、相互のサービス向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者は、グループホームの見学・体験入所などを行い、利用者と職員のなじみの関係を築き、本人が安心してサービスの利用が出来る、心地よい生活が出来るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望者の家族はグループホーム内見学・運営方針職員の対応について説明。ご家族の要望など、聞きながらともに解決の方法をさぐり、心地よい出来るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の生活史を知り、本人に何が必要なのかをアセスメントを通してじっくり考えながら、満足のいくサービスを利用できるように努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は食事作り・おやつ作り・菜園・買い物・外食など、暮らしの中で人生の先輩である利用者から学び、ともに生活している喜びを体感している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り合い、本人の状況・状態を報告、相談している。来訪時居室にて、お茶を飲みながらくつろぎ、家族との交流を深めていただく。イベントなどは共に、楽しむように参加を呼びかけている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と関わりのある来訪者は歓迎している。家族との外泊・外出は自由に行い、関係が途切れないように努めている。	家族や友人知人がホームに訪れたり、利用者が、週末自宅に帰ったり、家族と外出やお盆のお墓参り等自由に行い、馴染みの関係継続支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で協力しながら、職員と共に調理、洗濯物を干し、たたみ、布巾作りをしたりしている。車椅子利用の利用者を職員と共に押してあげる事もある。各自、居室を訪室し交流を図っておられる方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先への訪問を行って本人・家族との交流を続けている。必要に応じて電話での相談なども受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のつぶやきや、ちょっとしたサインを見逃さず、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で検討を繰り返しながら本人の思いを組み取るように努めている。	職員は利用者一人ひとりが「どのように暮らし、何をしたいのか、食べたいのか、誰に会いたいのか」等を時間をかけて聴きだし、本人の意向に沿える支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を大切に、本人の馴染みの物や写真など生活環境の変化を最大限少なくする工夫を行っている。経過観察を行いながら安心して過ごして頂けるサービスの向上を目指す		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの24時間生活シート、生活リズムシートなどで観察を行い、心身の状態を把握・記録している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や職員は、利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、本人・家族の意向に基づいた介護計画を関係者も交え、話し合いのもとに作成している。	介護計画は3ヶ月毎に見直し、利用者、家族の要望を聴き職員間で話し合い作成している。また、毎月のカンファレンス、モニタリングで利用者の状態を把握し、状態変化時にはその都度対応している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の心身の状態の変化などを個別に記録、職員間のミーティングなどで情報を共有、一人ひとりのプランの見直しを行い柔軟な支援を行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院・同行・看取りの支援、看護師常駐による健康管理。外食、ドライブなど利用者・家族の要望を取り入れたサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントとして、利用者の運動会を開催するにあたり、運営推進会議にて、地域の方々に場所の提案(市民センター等)・ボランティアの参加をお願いする。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの希望を大切に、かかりつけ医の受診支援を行っている。医師による往診も行って、常に連絡を取りながら医師の指示を仰ぐ体制に努めている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医と提携医、救急指定病院と連携し、常勤看護師と医師と常に話し合い、利用者の健康を管理している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師による健康管理 又、月1度は健康情報提供書をかかりつけ医に提出しチェックを受けるなど個別管理を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院・協力医との協力により早期に受診・早期発見にて、入退院の際、情報の共有を行っている。入院時には病院関係者に状態を伺い、退院を目指し情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・ご家族と連絡を密にとり、適切な対応が出来るよう常に連携をとっている。職員全体で取り組む為、研修会などで行い状態観察を的確に主治医へ報告、指示を貰う。	看取りの指針を作成し、家族の承諾をとり、支援出来る体制がある。職員は看取りを経験し、職員全員で取り組み、主治医、看護師、家族と連携し、利用者の状態を把握し、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は毎月、研修を行なっている。その中で応急手当・緊急時対応に関する研修を行い、応急手当・緊急時対応が出来るよう取り組んでいる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的に行っている。災害時に備え、職員の役割分担を行い、各自、責任を持って役割を遂行するよう心がけている。非常食・飲料水・毛布なども常時、備蓄している。	消防署の指導のもと、避難訓練を年2回、マニュアルに沿って職員の役割を決め、実施している。また、非常災害に備えて、非常食、飲料水、毛布等の備蓄も準備している。	地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し、寄り添う介護に努めている。	職員は利用者に大声で誘導したり、人前であからさまに介護したりせず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。また、個人情報のファイルは見えないようにカバーをし、対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との対話を通し希望や思いを組み取り、当施設内にて自由に思い思いの生活ペースを送っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事は最小限に、安全面に関する事を重視で、利用者一人ひとりのペースに合わせ、柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の乱れ、汚れなどないように気をつけている。散髪は毎月1回、第1月曜日に提携美容室が来訪す。髪カット・パーマなど希望される方は美容室への同行も行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ることは共に調理、片付けを行っている。切り方、柔らかさなど、食べやすい工夫している。担当職員も一緒に食事をしている。	利用者と職員は配ぜん、下膳、茶碗洗い等、楽しみながら、同じテーブルで、和気あいあいと食事をしている。料理自慢の職員が作った料理はおいしくて、利用者のほとんどが、完食している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は利用者ごとに記録し、バランスの摂れた食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受け利用者ごとに気をつけることの指示の元、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握し、トイレ誘導を行い、利用者の自信につながる支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操・リハビリ体操にて体を動かし、水分補給をしっかりと頂いて便秘の予防に心がけている。主治医より服薬の処方が出ている方も多。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂く為に、個別にゆとりある時間設定をしている。安全面と羞恥心への配慮をし、介助又は、見守りを行っている。	入浴は週3回であるが、利用者の希望でいつでも入れる状態にしている。調査当日は朝から入浴している利用者もいた。また、拒否する利用者には、職員が根気よく話したり、ドライブ等で気分を変えて入浴してもらうように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日の流れや行動を把握し、日中の休息・夜間の安眠が出来るように個々に対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には必ず、手渡しをし、飲み込むまで確認、服薬確認表に記録する。薬効や服薬量はファイルにとじ、いつでも見れるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付け・居室の拭き掃除・テーブル拭きなど、利用者各自で決められ、職員が見守りをしながら、支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族が見えて、気軽に外出・外泊されたり、美容院のお迎えでパーマをかけに外出されている。本人の希望により、天気の良い日は、職員と共に散歩に出かけている。	家族との外泊、外出、職員と散歩、理・美容院の送迎、外食等利用者の希望にそって、家族にも参加してもらい、楽しい外出が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理している方が1人、ほとんどの方がご家族及びグループホームで管理している。買い物の際は利用者1人に職員が1人ついて、行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者及び、ご家族と話し合い希望に応じ、電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の外に長いすを置き、職員見守りのもと、外の風を感じながら、会話を楽しむ。くつろげる和室で、ゆっくりできる。	玄関の前には木製ベンチがあり、外の景色や、めだかの鉢を眺め、寛げる空間がある。バリアフリーの共用空間は、安全で、廊下に置かれている椅子は、座ると心地よく、居心地良く暮らせる工夫がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・和室・居室・廊下に設置しているイスに腰掛け、自由に行き来し、会話ができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂いている。	居室のエアコン以外は、全て利用者の自宅から持ち込んだもので、ベッド、馴染みの家具、小物、家族の写真等利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札・顔写真を貼り、自室がわかるようにしている。安全な移動ができるように、廊下や非常口・食堂などに手すりを設置している。		